

**令和3年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書**

法人(事業者)名	社会福祉法人 よつば会		
介護事業所名	特別養護老人ホームゆうすいさと		
介護保険事業所番号	2590600181	サービス種別	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
所在地	滋賀県草津市駒井沢町400-1		
利用定員	29人	介護ロボットの種別	移乗介助
介護ロボットの製品名	移乗サポートロボット ハグ		
見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無	有・ 無		
導入時期	令和3年11月	導入台(セット)数	1台
リース・レンタルの場合の契約期間	年 月から令和 年 月まで		
【1. 介護ロボットの使用状況】			
※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。			
<p>本機器1台を導入し3ユニット内において、ベッド⇄車椅子・歩行器、トイレ(便座)⇄車椅子・歩行器、入浴介助時の車椅子⇄シャワーキャリー等への移乗の際の立ち上がり動作の支援の時に使用している。 また、リフト委員会を発足しこちらの委員会メンバーを中心に、機器利用の促進と育成を実施している。</p>			
【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】			
※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。			
<p>本機器を導入するまでは、当施設においての移乗介助支援に使用できる用具(機器)としては、リフト1台とスライディングボードであった。利用者の重度化に伴い、移乗介助支援を行う職員への身体的負担(腰痛等)を認めることがあり、利用者・職員双方にとっての安全面の確保が課題となっていた。 本機器を導入してからは、リフトを恐怖(吊り上げ動作)に思われていた利用者に対しても床面についての機器の為、そのような恐怖感もなく利用いただくことが可能となり、リフトでは対応が難しかった利用者への利用ができるようになったことで、職員が利用者の移乗支援を行う際の立ち上がり動作の介助を機器でサポートすることができ、特に二人介助にて対応していた利用者への支援がこちらの機器を使用することで職員一人介助にて対応することが可能となり、業務の効率化へも結びついたので同時に、機器導入前後と比べて支援者(職員)側の身体的負担の軽減が図れている。 現在、特養利用者29名中3名の方を対象に利用している。</p>			
【3. 一定の要件を満たす事業所における導入の効果】 補助率3/4適用事業所記載必須			
※補助率4分の3の適用を受た場合は、上記2に加え、下記①②を記載し、①と②が異なる場合は③も記載すること。			
① 計画	介護ロボット等の導入後に見込んだ介護職員等の人員体制(事業計画書に記載した内容)		
② 実績	介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制		
③ ②導入後の介護職員等の人員体制が、①導入計画時に立てた見込みと異なる場合はその理由			

【4. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】

※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。

機器導入後の課題として見えてきたこととして下記の点である。

- ① 利用者自身も機器に掴まってもう動作が必要となる為、ある程度の筋力(力)がある方でないとならば、動作の持続が難しく利用出来ない。また、事故に転倒事故に繋がる可能性があること。
- ② 支援者(職員)からの動作に関する指示が入る利用者でないと利用が難しいこと。
- ③ 機械を使うということに抵抗や恐怖がある利用者に対してのサポート。

実際に機器を導入し見えてきた3点の課題について、支援者(職員)側が、利用者本人の危険認知度やADLの状態を十分に把握した上で、適切に機器が利用できるように対応している。

※ 「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※ 複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。

(様式)

令和3年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書

法人(事業者)名	社会福祉法人慈照会		
介護事業所名	介護老人福祉施設 カルナハウス		
介護保険事業所番号	2570500054	サービス種別	介護老人福祉施設
所在地	東近江市建部下野町797		
利用定員	70人	介護ロボットの種別	移乗介護(装着型)
介護ロボットの製品名	マッスルスーツ Every		
見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無	有・無		
導入時期	令和3年11月	導入台(セット)数	8
リース・レンタルの場合の契約期間	年 月から令和 年 月まで		
<p>【1. 介護ロボットの使用状況】</p> <p>※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。 排泄介助(おむつ交換、トイレ介助)、移乗介助、着脱介助時に使用しているが、装着の手間があるので、少ない利用者の介助時は使用しない傾向がある。ただ、腰痛のある職員や腰に不安のある職員は100%使用している。</p>			
<p>【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】</p> <p>※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。 マッスルスーツの満足度調査結果について(職員回答者12名) ①装着の手間について ・全く手間を感じない 15% ・少し手間を感じる 62% ・かなり手間を感じる 23% ②装着時の腰の負担について ・かなり負担が軽くなった 42% ・少し負担が軽くなった 58% ・あまり変わらない 0% ③導入して良かったですか ・かなり良かった 33% ・良かった67% ・導入しなくても良かった 0% 【コメント】腰の負担軽減、導入への満足度については高評価であった。また、報知新聞にマッスルスーツの記事を掲載いただき、職場環境改善に取り組む施設として情報発信できた。</p>			
<p>【3. 一定の要件を満たす事業所における導入の効果】 補助率3/4適用事業所記載必須</p> <p>※補助率4分の3の適用を受た場合は、上記2に加え、下記①②を記載し、①と②が異なる場合は③も記載すること。</p>			
① 計画	介護ロボット等の導入後に見込んだ介護職員等の人員体制(事業計画書に記載した内容)	—	
② 実績	介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	—	
③	②導入後の介護職員等の人員体制が、①導入計画時に立てた見込みと異なる場合はその理由	—	

【4. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】

※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。

装着の手間があるので使用しない職員もいるが、慣れてくれればかなり早く装着できるようになるという声もある。今後暑い時期になると装着を避ける職員が出てくるかもしれない。腰痛のある職員、腰に不安のある職員は、自身の身を守る意識が高く100%使用していることから、今一度研修会等にて装着方法の周知と腰痛予防効果について学ぶ機会を設けて、使用頻度を高めたい。

※「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※ 複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。

**令和3年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書**

法人(事業者)名	社会福祉法人 尊徳会		
介護事業所名	特別養護老人ホーム 奥びわこ		
介護保険事業所番号	2570300877	サービス種別	介護老人福祉施設
所在地	滋賀県長浜市西浅井町1788-3		
利用定員	60人	介護ロボットの種別	移乗介助(装着型)
介護ロボットの製品名	マッスルスーツEvery タイトフィット/M-Lサイズ		
見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>		
導入時期	令和3年11月	導入台(セット)数	1台
リース・レンタルの場合の契約期間	年 月から令和 年 月まで		
【1. 介護ロボットの使用状況】			
※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。			
①マッスルスーツの使用方法に関する内部研修を実施し、装着方法や装着効果の学習をし、介護ロボットに対する職員の理解を深めた。			
②研修後、使用効果の高い業務について検討した結果、まず、特殊浴槽での入浴介助の業務において使用することとした。			
【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】			
※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。			
目標達成状況:80%			
・特殊浴槽での入浴介助では、中腰姿勢となる車椅子からストレッチャーへの移乗介助、更衣介助や洗体介助において腰への負担が軽減し、導入の効果が感じられる。また介護ロボットの導入は、職員にとって大きな刺激となった他、介護ロボットの導入やICTの活用が労働環境の改善につながることを認識することができた。			

【3. 一定の要件を満たす事業所における導入の効果】 補助率3/4適用事業所記載必須

※補助率4分の3の適用を受けた場合は、上記2に加え、下記①②を記載し、①と②が異なる場合は③も記載すること。

① 計画	介護ロボット等の導入後に見込んだ介護職員等の人員体制(事業計画書に記載した内容)	
② 実績	介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制	
③ <u>②導入後の介護職員等の人員体制が、①導入計画時に立てた見込みと異なる場合はその理由</u>		

【4. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】

※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。

・導入後の課題

1. 特浴では、移乗介助時、更衣介助時、洗体介助時等があるがマッスルスーツを装着していると違和感があり、介護者がスムーズに動きにくい。装着する回数を重ねて装着時の感覚に慣れることが必要。
2. マッスルスーツの装着に ある程度の時間がかかるので、入浴介助にかかる時間に装着の時間もプラスする必要がある。
3. 介護職が装着するスーツなので、介助中に汗をかいたりまたは、汚れたりすることがあるので、使用後のメンテナンスが必要。

※ 「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※ 複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。